

SDGs解説

2015年9月25日～27日、ニューヨークの国連本部で開催された「国連持続可能な開発サミット」において、150を超える加盟国の参加のもとその会議の成果文書として、「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals:SDGs)」を掲げる「我々の世界を変革する:持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択され、世界に大きな影響を与えています[1,2]。SDGsは2030年までに達成すべき世界中の共通の課題を17の目標と169のターゲットにまとめられていますが、17の目標は以下と図に示す通りです。

- 目標 1. 貧困をなくそう
- 目標 2. 飢餓をゼロ
- 目標 3. すべての人に健康と福祉を
- 目標 4. 質の高い教育をみんなに
- 目標 5. ジェンダー平等を実現しよう
- 目標 6. 安全な水とトイレを世界中に
- 目標 7. エネルギーをみんなに そしてクリーンに
- 目標 8. 働きがいも経済成長も
- 目標 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 目標 10. 人や国の不平等をなくそう
- 目標 11. 住み続けられるまちづくりを
- 目標 12. つくる責任 つかう責任
- 目標 13. 気候変動に具体的な対策を
- 目標 14. 海の豊かさを守ろう
- 目標 15. 陸の豊かさも守ろう
- 目標 16. 平和と公正をすべての人に
- 目標 17. パートナリーシップで目標を達成しよう

これら17の目標は、一部の人だけの利益ではなく、すべての人が互いに支え合う「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会」実現のための具体的な方策なのです。

日本政府は2017年5月に「SDGs推進本部」を設置し、国内実施と国際協力の両面で率先して取り組む体制を整え、日本の取り組みの指針となる「SDGs実施指針」を決定、2019年12月には「SDGsアクションプラン2020」を決定しました。日本企業の多くも、積極的にSDGsへの貢献を企業の努力目標に掲げるようになり、また多くの大学もこのSDGsの枠組みを通して社会貢献を明確に打ち出すようになりました。さらには、小学生を対象とした中学受験の入試問題でも、SDGsに関連した問題が出されるようになりました。このように国内の様々な機関でSDGsに積極的に取り組んでいます。

では、学術の立場からはどのように貢献できるでしょうか。SDGs は先に述べた通り、国連のサミットで採択された政策目標ですが、それらを達成するための政策手段は明示されていないため、政策手段の採用は各国政府にゆだねられていると考えられています。限られた資源という制約のもとで、目標達成にとって有効で効率的な政策の手段を考案し、自分の国の政府が採用している政策手段の有効性や効率性を検証することは、学術の責務であると考えます。

また、SDGs に限らず一般的に言えることですが、複数の政策目標と手段の間には、①目標間の整合性を考えると衝突や一致しない方向もあり得ますし、②ある目標が別の目標を達成するための手段でもありうる場合、③逆にある目標を達成しようとするると別の目標の達成の支障になるトレードオフと言われる場合など複雑な関係があり得ます。学術として SDGs を批判的に捉えることは、これらを検討し、限られた資源という制約のもとで、政策として何を優先すると全体としての目標達成に貢献できるのか、という判断も含めた材料を提供することができるでしょう。



図 SDGs の 17 目標(国連によるアイコン)[3,4]

(渡辺 美代子 国立研究開発法人科学技術振興機構副理事)

【参考文献】

[1] UN, “The 2030 Agenda for Sustainable Development”, 2015
<https://sustainabledevelopment.un.org/?menu=1300>

[2] 外務省、「SDGs とは？」、
<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/about/index.html>

[3] UN, “SDGs icons according to guidelines”,
<https://www.un.org/sustainabledevelopment/news/communications-material/>

[4] 国際連合広報センター ([3]をもとにした日本語版)
https://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/

「未来からの問い」検討委員会委員

2020年7月30日時点

	氏名	所属・職名	備考
委員長	山極 壽一	京都大学総長	第二部会員 会長
副委員長	渡辺 美代子	国立研究開発法人科学技術振興機構副理事	第三部会員 副会長
幹事	三成 美保	奈良女子大学副学長・教授(研究院生活環境科学系)	第一部会員 副会長
幹事	武内 和彦	公益財団法人地球環境戦略研究機関理事長、東京大学未来ビジョン研究センター特任教授	第二部会員 副会長
	遠藤 薫	学習院大学法学部教授	第一部会員
	久留島 典子	東京大学史料編纂所教授	第一部会員 第一部幹事
	橋本 伸也	関西学院大学文学部教授	第一部会員 第一部副部長
	藤原 聖子	東京大学大学院人文社会系研究科教授	第一部会員
	町村 敬志	一橋大学大学院社会学研究科教授	第一部会員 第一部部長
	溝端 佐登史	京都大学経済研究所長・教授	第一部会員
	宮崎 恒二	東京外国語大学名誉教授	第一部会員
	石川 冬木	京都大学大学院生命科学研究科教授	第二部会員 第二部部長
	佐治 英郎	京都大学特任教授 京都大学名誉教授	第二部会員
	澁澤 栄	東京農工大学卓越リーダー養成機構特任教授	第二部会員
	武田 洋幸	東京大学大学院理学系研究科長・教授	第二部会員 第二部幹事

	丹下 健	東京大学大学院農学生命科学研究科教授	第二部会員 第二部幹事
	平井 みどり	兵庫県赤十字血液センター所長	第二部会員 第二部副部長
	大野 英男	東北大学総長	第三部会員 第三部部長
	高橋 桂子	国立研究開発法人海洋研究開発機構 経営管理審議役/横浜研究所長	第三部会員 第三部幹事
	徳田 英幸	国立研究開発法人情報通信研究機構理事長	第三部会員 第三部副部長
	野尻 美保子	高エネルギー加速器研究機構素粒子原子核研究所・教授	第三部会員
	米田 雅子	慶應義塾大学先導研究センター特任教授	第三部会員 第三部幹事
	渡辺 芳人	総合研究大学院大学理事	第三部会員

本書の作成に当たっては、以下の職員が担当した。

事務局	犬塚 隆志	内閣府日本学術会議事務局(審議第二担当)参事官
	岡本 摩耶	内閣府日本学術会議事務局(審議第二担当)上席学術調査員
	野村 周弘	内閣府日本学術会議事務局企画課課長補佐(総括担当)
	東 祐介	内閣府日本学術会議事務局企画課総括係
	高谷 剛	内閣府日本学術会議事務局企画課広報係
	森田 健嗣	内閣府日本学術会議事務局企画課情報係
	中野 裕介	内閣府日本学術会議事務局(審議第一担当)審議専門職

索引

A-Z

B ファクトリー実験	250, 276
COP21	7, 218, 255
DV(配偶者間暴力)禁止法	40, 43
EU 一般データ保護規則(GDPR)	155, 183, 184
Gサイエンス学術会議	241, 258, 260, 261
iPS 細胞	134, 275
LGBT(性的マイノリティ)	44, 45
ODA(政府開発援助)	260
QoL	74, 116, 145
RIBF 加速器	276
Security by Design	174
SOGI(性的指向・性自認)	44-46, 57, 63, 125
Sport for all	124
STEAM	117
VR	115, 153, 173, 183

あ

アーキビスト	121, 122
アジア学術会議	240, 243, 299
アジア地域センター	254
アニメ	106, 107, 109, 116
アバター	65, 66, 172, 187, 189
安心安全	19, 39, 40, 189
暗黙知	166, 269
異常気象	221, 222
遺伝病・難病	142
医薬品開発	151
医療機器のインターネット(IoMT)	132, 157, 158
ウェルビーイング	116
宇宙ロボット	187
エスニシティ	125
遠隔手術	131, 153, 154
オープンアクセス	163, 285
オープンサイエンス	120, 163-167, 299, 341, 359
温室効果ガス	218, 326, 389, 390

か

海洋酸性化	206, 261
海洋脱酸素化	206
海洋プラスチック	206, 241, 261
外来生物	210
科学技術外交	243, 244
科学教育	208, 242
科学的エビデンス	126

学際研究	240, 242, 243
学習データ	15, 152, 162
学術コミュニティ	251, 254, 282
学術雑誌	167
化石エネルギー	215, 216, 218
化石資源	203-205
課題発見能力	294
感染症対策	299, 301, 340, 348, 383, 389
企業の社会的責任	19, 31, 32
基幹流通	201
気候システム	220
気候変動対策	219, 227, 228, 231, 243, 326, 390
気象災害	194, 195, 214
キャリア形成	287
巨大災害	156, 397
漁獲量	207, 208
京都議定書	218
競争的資金	251, 282
共感のための科学	247
教育アプリケーション	252
教育システム	234
教育格差	77, 78
教育訓練	85, 92
クール・ジャパン	106, 108, 109
クオーク	276
グローバル化	23, 39, 40, 81, 83, 85, 126, 244, 270, 290
グローバル経済	85
経済格差	11, 38, 83, 126, 133
経済戦略	108
経済損失	221, 222
健康寿命	13, 21, 74, 130, 135, 139, 182
研究資金	161, 228, 243, 281, 282
研究時間	282
原子力利用	54
原発安全神話	50
言語文化	268
個人の尊厳	18, 24, 91
互助	50, 75
公助	75, 335, 338
耕作放棄地	337
国際ネットワーク	250
国際学術会議 (ISC)	23, 240, 242, 299, 301
国際社会学会	251
国際人類学民族科学連合	250
国際生物学連合 (IUSB)	252
国際防災	256, 258

国際連携	156, 252, 253, 262, 347, 348, 350
国内食市場	199

さ

サイエンス 20	241, 261
再帰性	89
最終エネルギー	216, 228
再生エネルギー	14
災害対策ロボット	187
災害レジリエンス	257
サイバー空間	65, 135, 173, 176, 177, 181, 182, 368, 371, 372, 387
サイバー攻撃	157, 173, 174, 176, 180, 181
サイバーセキュリティ	174, 176, 178, 179, 182
サーキュラーエコノミー	14, 231, 232
産学連携	151, 341, 346
産業革命	7, 151, 215, 216, 218, 220-222, 269, 337,
山林ビジネス	384
シェアリングエコノミー	231, 232
自己組織化材料	278
自然回帰	196
自然再生	211
自然資本	14, 196
児童虐待防止法	40, 42
社会的孤立	22, 78
社会保障制度	48, 74, 87, 94
宗教	23, 24, 90, 91, 106, 120, 257, 266
就労人口	74
狩猟人口	210
情報システム基盤	120
情報リテラシー	214, 234
情報技術	8, 20, 59, 112, 113, 161, 214, 230, 231, 312, 384, 387
情報教育	168, 178
将来予測	151, 208, 210, 211, 220, 222
女性研究者	103, 244
シンギュラリティー	12
神経科学	272, 354
人口減少	8, 12, 58, 65, 68, 84, 85, 87, 94, 196, 198, 199
人材育成	11, 31, 178, 179, 204, 233, 265, 339, 345, 386, 387
人新世	7, 91, 210, 349
深層学習(ディープラーニング)	151, 155, 161, 187, 272
森林経営	203-205
森林率	203
新領域	295
水産資源	194, 207-209
ステレオタイプ脅威	102, 103
スマート・フードチェーンシステム	201
スマート農業	8, 182, 199, 201, 384, 385

性教育	43
生殖補助医療 (ART)	130, 133
生物資源	204, 208, 209
相互支援社会	135
創造的模倣 (ミメーシス)	269
尊厳	15, 18, 24, 35, 45, 47, 58, 91, 191

た

体外受精	133
第5次エネルギー基本計画	219
大量生産・大量消費	204
多義性	111
脱炭素社会	219, 226, 390
炭素価格の国際協調	227
治水	195, 222, 236, 237, 238
知の創造	160, 161
知識社会	4, 96, 160, 166, 170,
知的財産権	162, 185
地球温暖化	31, 194, 195, 203-207, 220, 222, 233, 254, 255, 336
著作権	162, 285, 362
ディーセント・ワーク	81, 82, 327
デジタル学術基盤	166, 167
データリポジトリ	163, 285
テニューア	100, 293
電気自動運転車	187
電波望遠鏡	277
東京声明	258
土地利用制度	196

な

日本の学術の展望	4, 11
日本の研究力	10, 277, 281
ニュートリノ	276
認証制度	122
認知症	130, 132, 135, 137, 272
農業人口	200, 384, 385
農業用水	235, 236, 238
ノーベル賞	96, 250, 265, 281, 293, 294

は

廃プラスチック	94
博士課程	240, 243, 281, 287-290, 293, 294, 303, 304, 379
パーシステントホモロジー理論	278
パーソナル・ヘルス・レコード (PHR)	182
バーチャル世界	269
ハラスメント	31, 35, 40, 42, 46, 47, 103, 125
パリ協定	7, 11, 89, 203, 205, 218, 219, 227, 260, 262
非正規雇用	25, 76, 92

人・AI 共創型	161, 162, 165
フィジカル空間	65, 135, 173, 176, 182, 372
複線型の人生	11, 12, 19, 57, 58
フューチャーアース	222, 240, 242, 251, 254, 262
プライバシー保護	149, 168, 182, 183
ブラックホール	276, 277
文化財	118, 120, 122
文化創造	109
平和度	244
ポジティブ・アクション	38
ポスト・セキュラー	23, 24
ポピュラーカルチャー	107-109
ま		
水資源	94, 199, 214, 235-238, 323
水不足	94, 235
ミレニアム開発目標	124, 260, 323, 324
民主主義	23, 24, 28, 29, 36, 122, 182, 270
モデル生物	130, 266, 274
問題解決能力	233, 294
や		
野生化	210
輸入食料	237
予防医療	348
ら		
リカレント教育	57, 157, 170, 171, 291
留学生	10-12, 82, 96, 99, 100, 286, 289, 347, 348
倫理的・法的・社会的・経済的課題	187, 189, 191
労働環境	76, 78, 81, 187
労働市場	59
労働条件	25, 62, 82
わ		
若手アカデミー	240, 242, 243, 261
若手研究者	3, 4, 240, 243, 244, 296, 316

未来からの問い

—日本学術会議100年を構想する—

令和2年9月10日発行

定価は表紙に表示してあります。

編 集 **内閣府日本学術会議事務局**
〒106-8555
東京都港区六本木7-22-34
電 話 (03) 3403-3793(代)
URL <http://www.scj.go.jp/>

発 行 **日経印刷株式会社**
〒102-0072
東京都千代田区飯田橋2-15-5
電 話 (03) 6758-1011

落丁・乱丁本はお取り替えます。

ISBN978-4-86579-234-8

